

Unit 25 副詞の情報表示機能

副詞は強弱濃淡の修飾機能だけではありません。すべての副詞はそれ自体意味をもっており、下の例のように、時間、場所、頻度、理由、原因、様態などの情報を伝達するのが副詞の主要な情報表示機能だといえます。

時間	We arrived there [on time]. (私たちは時間通りにそこに着いた) [When we get there], I will tell you the whole story. (そこについたら、話の全貌をお話しよう)
場所	He ran [around the track] [in the park]. (彼は公園のトラックをぐるぐる走った) He liked the place [where he often went for lunch]. (彼は自分がよく昼食にでかけた場所が気に入っていた)
様態	He said no [in a polite manner]. (彼はていねいにノーと言った) He said so [abruptly]. (彼は唐突にそう言った)
頻度	He said no [every time she made a request]. (彼は彼女がお願いをするごとにノーと言った) We [often] talked about politics. (我々はよく政治の話をした)
目的	He did everything [to reach the top of the social ladder]. (彼は社会の頂点に達するためになんでもやった)
理由	I came all the way here [because I needed your help]. (あなたの助けが必要なので、私はここにはるばるやって来ました)
道具	Break it [with a hammer]. (ハンマーでそれを壊せ)
条件	[If that is the case], I wouldn't say any more. (もしそれが真実ならば、私はこれ以上何も言うまい)
付帯状況	He smiled, [with his feet on the desk]. (彼は足を机に乗せて笑った)

このうち、いくつかを少し詳しくみておきましょう。

手段・道具を表す副詞表現

手段 (means) とは目的 (end) を遂げるための方法で、英語では特に「交通手段」を表す際には前置詞のbyを使います。一方、「道具」 (tools) は、手の補助手段として使う器具 (instrument) で、英語では一般的に前置詞のwithを使います。

I'll send this package by sea.

(船でこの荷物を送ります。)

I go to school by bus.

(私はバスで学校に通います。)

Eat the noodles with chopsticks.

(箸でうどんを食べなさい。)

Fill in the form with a pen.

(ペンでこの書類に記入しなさい。)

「道具」は手にすることができる具体物 (もの) であり、「手段」は「何かを実現するために講じる方法」であって手にするような具体物ではありません。そこで、with chopsticks やwith a penなどは「具体的な箸」や「具体的なペン」を思い描くことができます。一方、「手段」は方法なので手にするような物ではなく、公共手段の「バスで」はby bus、「タクシーで」はby taxiのように、冠詞のつかない形のbusやtaxiになります。なお、公共の移動手段を表す方法としては、以下のように「道路で」「空路で」といった言い方もあります。

by car / by road、by plane / by air、by train / by rail、by boat / by sea

ただし、「歩いて移動する」という場合には、on footというのが普通ですが、別の移動手段と対比する場合には、I'll go by foot, not by car or bus. という言い方もします。「自転車で」という場合には、by bicycleだけでなく自分で利用するという意味合いが強ければ on a bicycleともいいます。

様態を表す副詞表現

何かを行うのに、それをどのように行うかが関心の中心になる場合がよくあります。そうした際に活躍するのが様態の副詞チャンクです。「様態」 (manner) は「物のあり方や行為のありよう」を表す表現で、

英語では広義にはhow（どのように）にあたります。

これも語と句の両方で表現されます。語で様態を表す表現の大半は、beautifully のように-lyがつく語です。一方、句の場合には、in a (strict / professional) manner / fashion、あるいはin a way that attracts my attention、(in) the way we used to doの形が一般的に使われます。beautifullyで「美しく」ということですが、in a beautiful mannerあるいはin a beautiful fashionで表現することもできます。mannerやfashionをつけ加えると、様態の意味合いが強くなります。efficiently でも同じで、in an efficient mannerと表現できます。

様態表現のための方法を整理すると次のようになります。

beautifully 美しく、elegantly 優雅に、gradually 次第に、rapidly 急速に、slowly ゆっくりと、strictly 厳しく

in a[n] [efficient / elegant / gradual / slow / strict...] manner
〈効果的な/ 優雅な / 緩やかな/ ゆっくりとした / 厳しい〉方法で
in a way that [reminds me of my teacher / attracts my attention]
先生を思い出させる方法で / 私の興味をひくやり方で
in such a way as to [help students learn vocabulary]
学生たちがボキャブラリを学ぶのを手助けするような方法で
(in) the way [I like / we used to do]
私の好きなやり方で/ 私たちが以前やっていたやりで

小説の一節におけるin a way that…と「the way + 節…」の使用例みておきましょう。

The officer looked at Daisy while she was speaking, in a way that every young girl wants to be looked at sometime. [F. Scott Fitzgerald, The Great Gatsby]

その将校はデイジーが話している間、彼女を見つめた。それは、若い女性であれば誰でもいつかは見つめられたいような見つめ方であった。

“I’m going to fix everything just the way it was before,” he said, nodding determinedly. [F. Scott Fitzgerald, The Great Gatsby]

「以前とちょうど同じようにすべてを整えるつもりだ」と彼は確信してうなずきながらいった。

付帯状況 : with の力

「何かがある状況を伴って」というのが付帯状況で、典型的には with で表現されます。

何か出来事が起きる際に、それに付随する状況を描写するのに付帯状況という副詞的表現を使います。以下はその例です。

Jack was listening to the result of his test, his heart being fast.

(ジャックは、ドキドキしながらテストの結果を聞いていた。)

She stood motionless, her eyes fixed on the brutal scene.

(残酷な光景に視線を釘付けにされたまま、彼女は立ち尽くしていた。)

Don't speak with your mouth full.

(口をいっぱいにして(食べ物を食べながら)話してはいけない。)

ここで共通しているのは、主節の主語と付帯状況を表す表現の主語が異なるということです。with構文は分詞だけではなく、形容詞、副詞などを用いても可能であるということが最大の特色です。例えば次の文をみてみましょう。

With Dad (being) away from home for a while, you're going to have to take over his responsibilities.

You understand?

(パパはしばらく家を空けるからから、パパの分までお前がしっかりしなさい。わかった?)

これは、父親がしばらく家を留守にするので、息子にしっかりとるように伝える母の言葉です。このWith Dad being away from home… は「……のことだし」といった意味合いです。Since Dad is away from home… にすれば、since によって「理由」が明確になりますが、with を使った構文だと「状況を説明し、その状況を踏まえて」といった付帯状況の意味合いが込められた理由の意味になります。

付帯状況のwith構文は文頭に置くか、文尾に置くかで、同じ付帯状況でも強調される意味合いが異なります。文頭だと「事情を述べて、主節内容を語る」の意味合いが、文尾だと「主節内容を示し、補足的な状況を述べる」の意味合いが強くなります。

文頭のwith 構文：事情を述べる意味合いが強くなる。

With Tom so ill, we shouldn't leave.

(トムの病気が重いので、私たちは出発するべきじゃない。)

With Christmas just around the corner, I should do some shopping.

(クリスマスがすぐなので、買い物をしなければならない。)

例えば、With Tom so ill, we shouldn't leave. のWith Tom so ill には「……のことだし」「……ということで」といった事情を述べるはたらきがあります。

文尾のwith 構文：先行する主節の補足的な状況を述べる意味合いが強くなる

She was reading a paper with her arms folded.

(彼女は腕を組んで新聞を読んでいた。)

Dinner was already on the table, with many biscuits piled high upon the bread platter.

(晚餐の準備はすでにテーブルに整っていた。そこではパンを入れる皿にたくさんのビスケットが重ねてあった。)